

夏は苦手克服に取り組もう

茗溪塾塾長 長谷 誠基

勉強をやっていると苦手な教科や単元は必ず出来てきてしまうものです。「英語が嫌い」「算数・数学が出来ない」「理科の天体がわからない」「歴史が覚えられない」「国語の文章問題が苦手」など、人それぞれ違いはあれ、一つはあるのではないのでしょうか？しかし、そのままではいいはずがありません。今年の夏はいつもより少ないかもしれませんが、それでも普段よりは使える時間がたくさんあるはず。この夏の時期を使って苦手克服に取り組んでみましょう。

苦手克服のポイント

①勉強は苦手教科から始める

苦手な教科は本人にとっては当然「好き」ではなく「嫌い」なものです。おそらく「嫌い」な勉強は後回しになるか、最悪は「やらない」ということになる可能性があります。そこで、まず日々の勉強を苦手教科からはじめてみましょう。そして、初めは短い時間（10分～20分で OK）でできるものを作りましょう。そうでないと途中でいやになって続かなくなってしまう。それを防ぐためにも、毎日・少しずつ始めてみてください。量も大量にではなく、プリント1枚とか、テキスト1ページとかでかまいません。もし、家でできない場合は最終手段です。授業のある日に塾に来てやりましょう。少し早めに来てもいいですし、20分だけ残ってやるのもいいと思います。家でできない人でも塾でならできるはず。です。

②思い切ってハードルを下げる

苦手になる原因はいくつかあると思いますが、まず「そもそも基本理解が出来ていない」または「解くための道具がそろっていない」ということがあると思います。例えば「速さって何？」と聞いたとします。それに対して「1秒や1分、1時間で進む道のり（距離）」と答えられる人は速さが苦手なわけがありません。速さの意味がわからない、だから公式も意味も分からず覚え、単位を直すことなど考えもしない。ということにつながります。「そもそも基本理解が出来ていない」場合はその基本を理解する必要があります。これはその単元をはじめに習った教材に戻ってやり直してみましょう。もう一つの「解くための道具がそろっていない」の場合ですが、算数・数学の基本はまず計算です。算数・数学が苦手だという人はかなりの割合で計算力に不安があります。まずは計算力をつける練習から始めてみましょう。国語はまず漢字の暗記、英語は英単語の暗記から練習するのがいいと思います。それ以外でも、まず本人ができるレベルからスタートしていくと継続してやることができます。

③説明してみる

本当に理解しているかどうかを確認するには、人に説明してみるのが一番です。苦手な単元を勉強した後、「どうしてそうなるか、お母さんに教えて。」と保護者の方が生徒役になって、説明させてみましょう。説明できれば OK。うまくできなかつたら、「もう一度やり方を先生に聞いてみて。」といって塾に出してください。教室の先生がやり方をしっかり教えてくれるはずですので、もう一度説明させてみましょう。そしてできたら必ず褒めてあげましょう。中学生以上は保護者の方に説明するのは難しいので、友達同士で教え合うのがいいと思います。

この夏を志望校に近づく大きな一歩とするために、弱点克服にぜひ取り組んでみましょう。